



原木しいたけ(115号菌)が 発生しました

ハウス内では、大型のしいたけが
発生しやすい環境を整えるため、水
分や温度を管理します。

日野振興センターだより9月号
で、本年度、県西部地域で5名の
方々が「鳥取茸王」の生産を目指し
て取り組まれていることをお伝えし
ましたが、新設されたビニールハウ
スでは、多くのしいたけが発生し始
めています。

しいたけづくりには2つの工程が
あることをご存知ですか？

最初の工程は、春、クヌギやナラ
の木にしいたけ菌を植え付け、冬ま
での間に木の中にまん延させる「ほ
だ木づくり」です。こうしてできた
ほだ木からは、冬、気温が下がると
しいたけが発生してきます。そのし
いたけを高品質に仕上げる工程が
「しいたけづくり」です。

「しいたけづくり」は、「鳥取茸王」
が発生する大径で重いほだ木を、気
温が下がってくる初冬に、伏せ込み
場である森林からビニールハウスに
入れ込む、大変な重労働から始まり
ます。



発生し始めたしいたけ

水分管理は、ほだ木が乾いてきた
ら、表面が湿るくらいの水を5分か
ら10分程度かけ、これを繰り返して行
なうことで、しいたけを育てるため
の水分を供給します。

温度管理は、発生してきたしいた
けの一つ一つに袋かけをして、一定
温度で保湿することにより、じつと
り大きく育てます。この時、足の太
さが2.5cm程度以上のものにかける
と、10%程度の確率で「鳥取茸王」
になります。

このように、しっかり見守り、手



発生したしいたけへの袋かけ

をかけ、大切に育てることで、質の
良い大きなしいたけを作ることがで
きますが、「鳥取茸王」を作ること
は大変難しいものです。

日野振興局では、先頃、一般財団
法人日本きのこセンターの指導によ
り、ハウス内ではほだ木を管理する方
法やしいたけを発生させる方法、作
業上の注意点などについて技術研修
を実施したところです。

今後も、定期的な技術指導を行な
うとともに、JAの協力を得なが
ら、販売・流通を推進し、原木生し
いたけの生産拡大、消費拡大を図り
ます。

年末から日吉津村の「アスパル」
に並び始めた「とっとり115」。
みなさんも是非、原木生しいたけを
ご賞味ください。

問 日野振興局農林業振興課

電話：085917212018

FAX：085917212125

